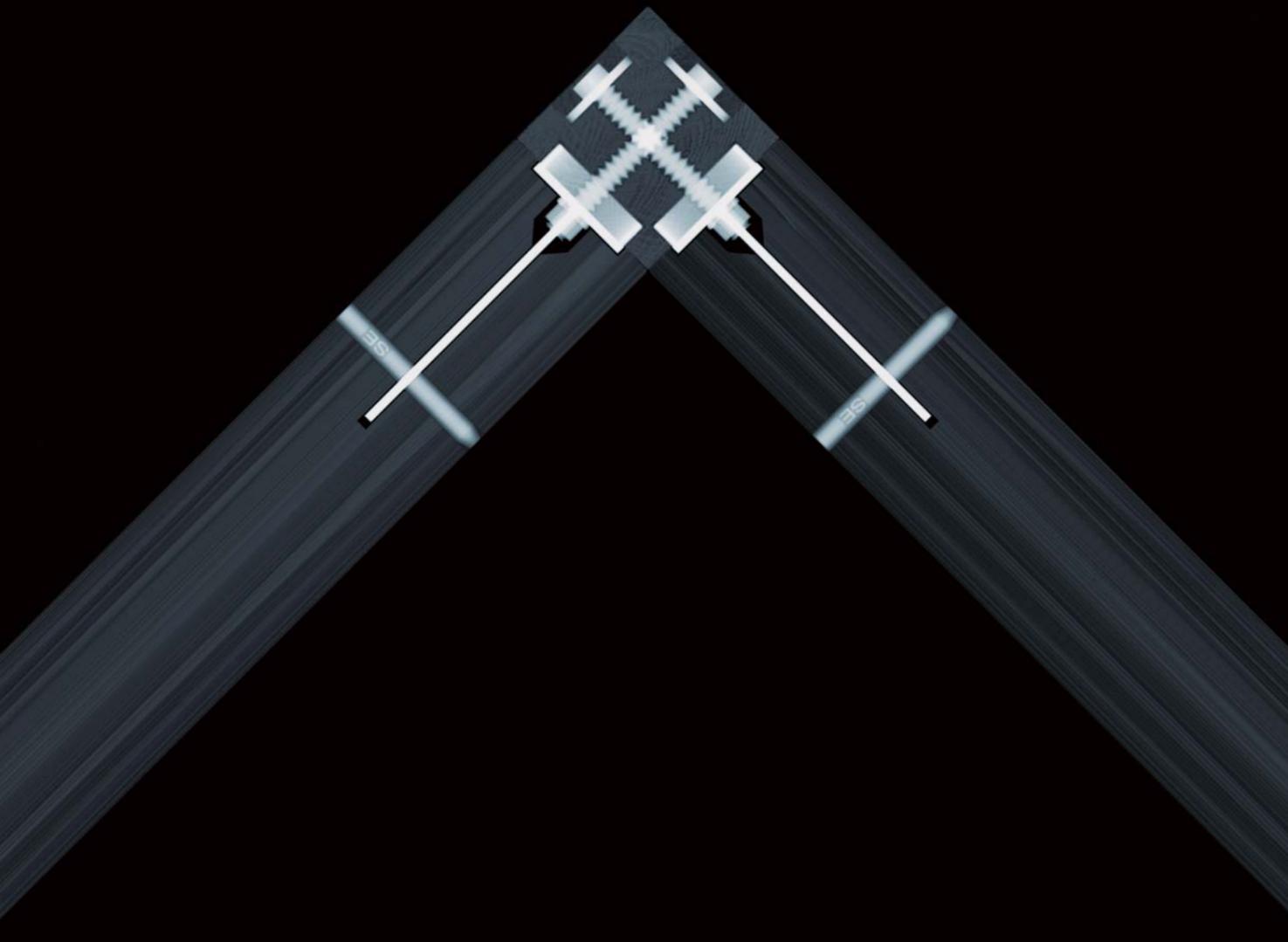


傾斜地を 生かす



木に金属、という安心

耐震構法
SE構法

安心と安全が住宅建築のかたちになりました。強度の高い集成材の接合部に、独自の金物を用いる構法は、在来の軸組工法と比較して、断面欠損の少ない強固な接合部を生み出します。

接合部分が強靱であることにより、柱と梁のみで揺るぎない強度の骨組みを生み出すことが出来ます。柱と梁で建築を支える構造を「ラーメン構造」といいますが、SE構法は接合部を強化した堅牢なラーメン構造。骨組み全体で建築を支えるので、まさに家そのものが大黒柱であるといえます。柱や区画の壁が少ないため、光を取り入れる大きな開口部や窓、出入り口、そして広々とした吹き抜け空間が安全に実現できます。

東日本大震災において、SE構法で建てられた建築の地震による倒壊はゼロ。地震国日本を安全・安心に暮らしていくために、耐震構法・SE構法をご活用ください。





Slope land utilization
傾斜地を
生かす

ARCHITECT
HAKIRI ARCHITECTS

BUILD
Karpos



施主とカーポス工作所の森岡耕三さんとともに好きだという“倉庫の雰囲気”を外観デザインに生かしました。

Slope land utilization
傾斜地を
生かす
ARCHITECT
HAKORI ARCHITECTS
BUILD
Kuriyasu

広い駐車場と倉庫のような雰囲気を持った建物は 富士山の眺めも楽しめるカフェでした。

「建築前はウィークポイントしか見えない土地で、神主さんに『家はどこに建てるの?』と聞かれるほど」

地鎮祭での出来事を笑顔で話すのはカーポス工作所の森岡耕三さんです。静岡県富士市の国道139号と凡夫川に挟まれた場所にあるBLITZ COFFEEは、2階が店舗、1階が6台分の駐車場という構成。物件を見る限り、森岡さんの言葉は想像できません。しかし北側にある凡夫川から見ると、川の斜面ギリギリに建物があるこ

とがわかります。しかも川面から地面までは7mほどあり、かなりきつい傾斜になっています。さらに「土地のへりもうねっていて、弱点ばかりに見える。だからこそ、アイデア次第だと思いましたね」

最初の段階ではRCで地中に埋設することも考えたそうですが、造成工事に1000万円以上かかるとわかりました。そこで森岡さんは建物が軽く、コストが削減できるSE構法を採用することに決めました。

カーポス工作所
一級建築士事務所

設計&施工

会社名 カーポス工作所
所在地 静岡県富士市中央町1-10-9
会社設立 19--年--月
代表取締役 森岡 耕三
URL <http://www.karpos.co.jp/>

耐震構法
SE構法

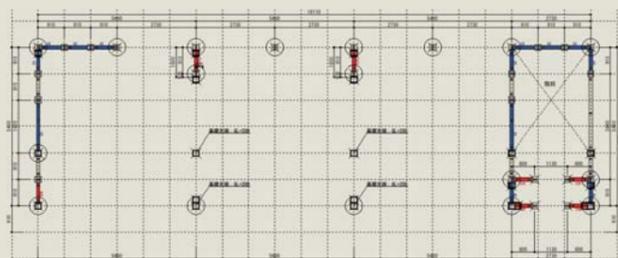
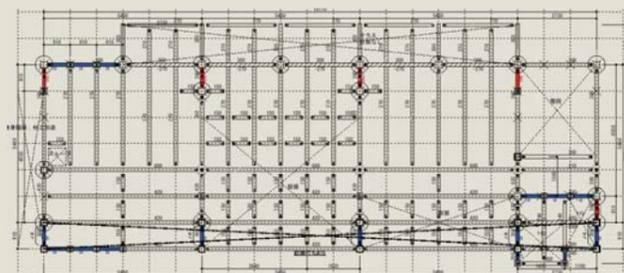
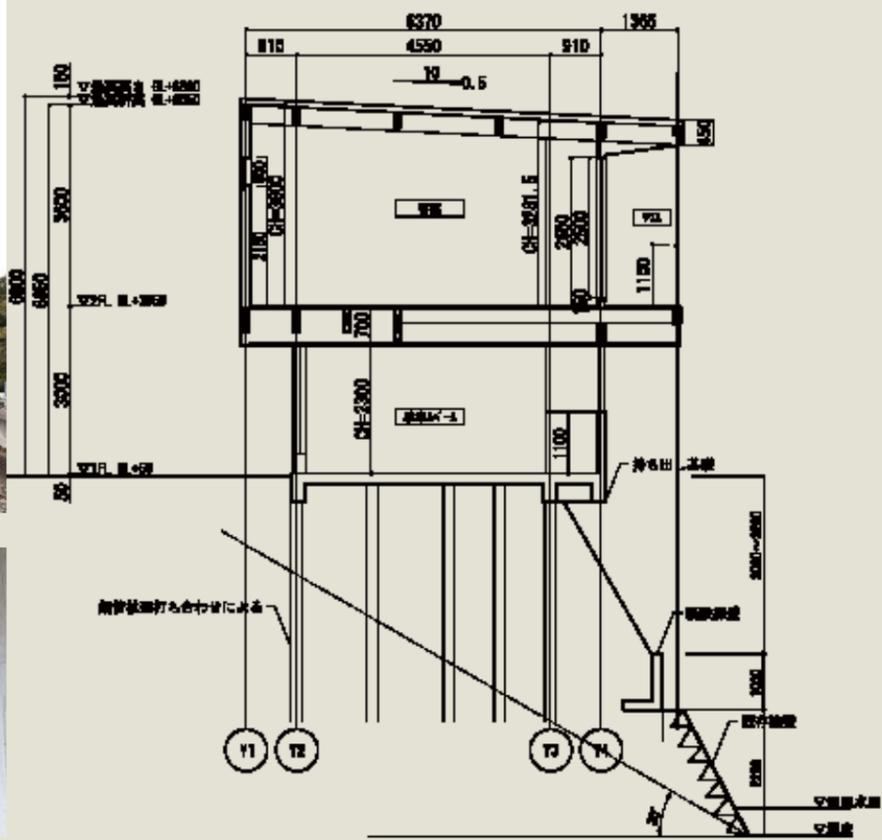
「大きなスパンが取れるし、カフェ内も広々とした空間になる。また駐車場に必要な基礎の持ち出しも可能です。それに2階からの眺めも得られる。SE構法がこの土地を攻略するための武器になりました」

依頼したのはBLITZ COFFEEのオーナー、白川澄人さん。最初に喫茶店を開いた10年以上前から、カーポス工作所のファンだったと明かします。

「多くの店舗を手掛けていることも知っていましたし、そ

れらに足を運んだりもしていました。実際にお目にかけて話をしたら、お互いに“倉庫の雰囲気が好き”ということもわかり、トントン拍子に進みました」

一方、森岡さんは設計する上での考え方を「使い方次第でいかようにでも造作できる、シンプルな箱を提案し、提供することが設計屋の仕事だと思っています。今回はSE構法を使えば、“間違いなくいいモノができる”と確信していました」と語ります。



長く、傾斜のきつい土手（川面から地面まで高さ約7m）は弱点になるはずでしたが、地中に打たれた69本もの杭により利点に変わりました。1mの擁壁を新たに設け、川側は910mm間隔で22本の杭が打ち込まれています（写真上参照）。シンプルなグリッド設計により、耐力壁も非常に少なく、1階には2台ずつ計6台が駐車

できるスペースを確保。2階の持ち出しは入り口側、川側ともに910mm。川側にはさらに1,365mmのテラスが設けられています。入口上にある白い張り出し部分は化粧室。荷重がかからない洗面台が置かれます。スリット窓により採光も充分です。

Slope land utilization
傾斜地を
生かす
ARCHITECT
HASEGAWA ARCHITECTS
BUILD
Katsuo

傾斜地のウィークポイントを利点に変えたのは69本もの杭を使って完成した堅牢な基礎。

この物件の特徴は見えないところにあります。地中、つまり基礎部分です。19,110×6,370mmという土台の物件に対して、全部で69本もの杭打ちを実施しているのです。これにより、傾斜面であっても、堅牢な基礎づくりを可能にしました。

森岡さんは「1階が駐車場ということもあったので、通常よりも多めに杭打ちしています。川側の持ち出し部分は910mm間隔で打ち込みました」と説明します。一般的な間隔が1,820～2,000mmということからも、半分以上の幅で杭が打たれていることがわかります。

そしてその杭をさらに強固なものにするため、既存の擁壁の上に、新たに高さ1mの擁壁を設けるといった念の入れよう。そのため、基礎工事に要した期間は約3カ月と長期になりましたが、「この物件は、基礎が終われば、完成したようなものでしたからね（笑）」。

そしてもうひとつの特徴が、稀に見ると言っても過言ではないほどの耐力壁の少なさです。設計図からもそれが理解いただけるでしょう。これを実現した理由はグリッドにあります。

「グリッドがシンプルであれば、耐力壁を少なくできますし、耐力壁が少なければ管理もしやすい。ですから“グリッドだけはずらさない”、このことを念頭に、つねに設計しています。また耐力壁の場所も、施主が使用していく上で、支障のないところに備えるよう、考慮しています」

たとえば2階にある耐力壁は、隣接する工場側に設置しています。ここは当初から視界に工場が入るとして、窓にする予定がありませんでした。余計な壁が一切ない。ゆえにすっきりとした、そして広々とした大空間が誕生したのです。



- A** テラス席のフェンスにはフラットバーとアングルをドブ浸けした鋼材を使用し、足場板をはめ込みました。
- B** 4,550×2,800mmのエントランスでは自家焙煎のコーヒー豆を販売。富士山が臨める西北に向けた窓の幅はなんと15,510mm。
- C** 倉庫をイメージした窓枠と手すり。階段には店内と同じく足場板採用。照明は白川さんが集めていたものだから。
- D** 日暮れを過ぎると、建物からは光が溢れ、昼間とは表情が変わり、遠くからでもその存在感は際立っています。
- E** カフェの奥には5,460×6,370mmもの大空間が現れます。この空間の左右の壁が2階部分の体力壁となっています。



耐震構法 SE構法

所在地：静岡県富士市
 構造：木造2階建て
 延床面積：000.00㎡
 各階床面積：1F 000.00㎡ 2F 000.00㎡
 設計：羽切建築設計事務所
 施工：カーボス事務所



カフェの内装はオーナー夫妻の手により完成。 富士山という最高の景色も手に入れました。

「2階の窓からは、富士山が一望できるんです」
 そう笑顔で語る白川さん。凡夫川による解放感のおかげで見事な眺望を手に入れました。
 ユニークなのは、設計図はあったものの、内装などの細かな点はほとんど決めずに施工をスタートしたということ。そのため、床材は工事中に見てその質感に惚れ込んだという足場板を採用できました。梁のペンキ塗りや

化粧室のタイル貼りといった内装の仕上げは、白川さんご夫妻が担当したそうです。
 「完成してから2ヵ月以上毎日通いました。いまは希望通りに仕上がったと満足しています。作っている間は楽しかったです……けど、やっぱり大変でした」と思い出を語る白川さん。居心地良さそうに過ごしているお客様を見ると、内装は成功だったようです。